

東洋・日本美術史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋・日本美術史特論Ⅰ	美術と宗教思想	2	長岡 龍作	前期 月曜日 3講時	
東洋・日本美術史特論Ⅱ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	前期 水曜日 3講時	
東洋・日本美術史特論Ⅲ	中国書画の鑑賞と鑑識	2	塚本 磨充	通年集中 その他 連講	
東洋・日本美術史特論Ⅳ	美術と宗教思想	2	長岡 龍作	後期 月曜日 3講時	
東洋・日本美術史特論Ⅴ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	後期 水曜日 3講時	
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	美術史基礎資料読解	2	長岡 龍作	前期 水曜日 4講時	
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	日本絵画作品研究	2	杉本 欣久	後期 水曜日 4講時	

科目名：東洋・日本美術史特論 I / History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LM11307, 科目ナンバリング：LIH-ART601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目) : Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、奈良時代の大仏造立を取り上げ、その意義を述べる。そして、その後は大仏造立が生み出した仏教思想との関わりから、以降の時代の美術とその意義を探っていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1) Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2) Students understand the world view projected on art.

(3) Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 「日本美術史」のはじまり 1 「日本美術史」の成立
3. 「日本美術史」のはじまり 2 「日本美術史」の展開と相対化
4. 奈良時代の大仏とその世界 1ー大仏造立の意義
5. 奈良時代の大仏とその世界 2ー大仏と観音菩薩
6. 奈良時代の大仏とその世界 3ー大仏と正倉院宝物
7. 善財童子の旅ー善知識を訪ねる 1ー観音菩薩
8. 善財童子の旅ー善知識を訪ねる 2ー文殊菩薩と普賢菩薩
9. 鑑真と唐招提寺の仏像 1ー不空羼索観音と薬師如来
10. 鑑真と唐招提寺の仏像 2ー金堂の仏像
11. 悔過と仏像 1ー秋篠寺と延暦寺
12. 悔過と仏像 2ー神護寺薬師如来像の世界
12. 悔過と仏像 3ー十一面観音像
14. 空海と仏像 1ー東寺の仏像
15. 空海と仏像 2ー高野山の仏像

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像ー祈りと風景』（敬文舎）2014 年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM13305, 科目ナンバリング：LIH-ART602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 唐絵とやまと絵
- 3回目 狩野派の系譜1(御用絵師・正信から元信へ)
- 4回目 狩野派の系譜2(永徳と桃山の大家)
- 5回目 狩野派の系譜3(江戸狩野と英派)
- 6回目 8代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 7回目 京都の町絵師(俵屋宗達から宮崎友禅へ)
- 8回目 尾形光琳と乾山
- 9回目 対外交渉と長崎派
- 10回目 沈南蘋と南蘋派
- 11回目 名物刀剣と江戸時代の剣術
- 12回目 刀装具と鐔の意匠性
- 13回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 14回目 近江商人の絵画と北関東への伝播
- 15回目 京都の雪舟流と漢画の復古

8. 成績評価方法：

レポートによる評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅲ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：塚本 鷹充

コード：LM98807, 科目ナンバリング：LIH-ART603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国書画の鑑賞と鑑識
2. Course Title (授業題目)：Connoisseurship Studies of Chinese Painting and Calligraphy
3. 授業の目的と概要：中国美術は書画を中心に、青銅器や玉、陶磁器、文房具、漢籍をふくんだ豊かな「古物」の世界として発展してきました。本講義ではそれらの基礎的な見方や様式的な理解を身に付け、自分で十分に鑑賞できるようになったあとで、なぜそれらがアジア社会のなかに存在してきたのか、そしてこれからの社会にどのような意味を持っているのかを考えることを目的とします。そのために中国美術史の認識の発展、博物館や大学、美術史家といった制度、近代とアジアの関係などの視点を中心に、中国美術の存在そのものの意味を問い直してみたいと思います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on taking connoisseurship of Chinese Painting and Calligraphy though ancient times to modern era 21th century. The field of this class, including not only painting and calligraphy, but ritual items, like bronzes and ceramics, publish culture, it will take up discussion for whole recognizing of Chinese Art world. Student will learn not only outline of Chinese Art history, but how it was collected, preserving, and the role of Chinese object in East Asian society.
5. 学習の到達目標：中国美術の基礎的な様式、概念、鑑識方法を習得する
中国美術がアジア全域にわたって存在している意味を考察する
作品を楽しく鑑賞できるようになる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Recognizing the importance of connoisseurship on Chinese art history
Making full use of the skills, obtain new perspectives for East Asian history
Observing objects and materials
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1、イントロダクション1 「中国美術」研究をふりかえるー日本、欧米、中国、台湾ー
 - 2、イントロダクション2 博物館と中国美術ー見る、集める、展示するー
 - 3、気の芸術 秦漢から六朝時代の造型と芸術論
 - 4、五代から北宋へー山水画の成立ー
 - 5、首都開封の建設と皇帝の文物（啓聖禅院・大相国寺、開宝寺舍利）
 - 6、郭熙山水の達成と李郭派の系譜
 - 7、（二玄社の複製をみよう）
 - 8、徽宗画院から南宋へー詩情と写実ー
 - 9、南宋絵画と日本ー東山御物から大名コレクション、地方美術館へー
 - 10、元代の文人画ー東洋のルネサンスー
 - 11、明代の絵画ー呉派と浙派、奇想派ー
 - 12、東洋絵画の技法と材料ー絹・紙・墨・顔料・染料・金ー
 - 13、清朝の美術ー乾隆帝の文化帝国ー
 - 14、近現代の美術ー東アジア美術と「近代」の受容ー
 - 15、「あいだ」と「はしっこ」の美術史ー台湾美術と東アジア美術史の可能性ー
8. 成績評価方法：
レポートと平常点
9. 教科書および参考書：
 - ・『世界美術大全集 東洋編』1～9、小学館、『故宫博物院』第1～5巻、NHK出版協会
 - ・『日本美術全集 11巻 東アジアのなかの日本美術』小学館、2015年
 - ・『上海博物館 中国絵画の至宝』東京国立博物館、2013年
 - ・『中国書画探訪ー関西の收藏家とその名品』曾布川寛、中国書画コレクション研究会編、二玄社、2011年
 - ・『中国絵画入門』宇佐美文理、岩波新書、2014年そのほか、授業中に適宜紹介します
10. 授業時間外学習：授業中に指示します
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅳ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LM21305, 科目ナンバリング：LIH-ART604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期はまず、平安時代の美術と関係の深い北宋時代の美術を紹介した後、東大寺大仏と清凉寺釈迦の関係が導く宗教的な意義について論じる。その後、摂関期から鎌倉時代の宗教美術について、先の二者の関係を踏まえた観点から探る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題

2. 北宋美術の諸相1ー開封と杭州

3. 北宋美術の諸相2ー舍利塔地宮の世界

4. 清凉寺釈迦如来像の世界1

5. 清凉寺釈迦如来像の世界2

6. 清凉寺釈迦如来像の世界3

7. 摂関期の信仰と美術1ー浄妙寺と法成寺

8. 摂関期の信仰と美術2ー平等院鳳凰堂

9. 院政期の信仰と美術ー法勝寺と中尊寺

10. 重源の思想と美術1ー東大寺大仏再興

11. 重源の思想と美術2ー別所の造形

12. 鎌倉時代南都の美術1ー釈迦如来

13. 鎌倉時代南都の美術2ー弥勒菩薩

14. 戒律復興と美術1ー貞慶

15. 戒律復興と美術2ー叡尊

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像ー祈りと風景』（敬文舎）2014年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史特論V／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM23305, 科目ナンバリング：LIH-ART605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroomを使用して授業を行うとともに、講義資料と講義情報を発信します。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 江戸絵画の「真」「贋」一研究に立ちふさがる壁一
- 2回目 江戸と浮世絵1一菱川師宣・西川祐信・鈴木春信一
- 3回目 江戸と浮世絵2一東洲斎写楽と喜多川歌麿一
- 4回目 江戸と浮世絵3一葛飾北斎と歌川広重一
- 5回目 武士の絵画1一鑑戒一
- 6回目 武士の絵画2一暢神一
- 7回目 京都と円山派1一円山応挙一
- 8回目 京都と円山派2一応挙の門人たち一
- 9回目 京都と四条派一蕪村、呉春とその門人一
- 10回目 天下の台所・大坂の絵画
- 11回目 江戸の絵画1一18世紀の絵画状況と谷文晁の登場一
- 12回目 江戸の絵画2一洋風画(司馬江漢・渡辺華山)一
- 13回目 東北の画人たち
- 14回目 好古家と考古学の黎明
- 15回目 伊藤若冲一その真実を探る一

8. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990年代前半)

『世界美術大全集』東洋編(小学館 1990年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史研究演習 I / History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LM13409, 科目ナンバリング：LIH-ART606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術史基礎資料読解

2. Course Title (授業題目) : Reading the historical documents of art history

3. 授業の目的と概要：この演習では、美術と深く関わる基礎資料を読み込み、その内容が残されている美術作品とどのように関わっているかについて探求し、資料の創造的な読みを実践しようとするものである。『公刊美術史料寺院篇』・『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』・『江都督納言願文集』・『転法輪抄』から造像に関わる願文（または表白）を選び、それを素材としていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, we will read basic documents deeply related to art. Through the reading, we will find how it relates to the remaining artworks and practice creative reading of documents.

5. 学習の到達目標：基礎資料の読解力を身につけるとともに、美術史研究における資料の創造的な活用法を探求する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students acquire the skill to understand basic documents, and try to find the way to use documents creatively in art history research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクションー造像銘記ならびに納入文書について
2. 発表準備
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 像内文書・願文を読む
7. 像内文書・願文を読む
8. 像内文書・願文を読む
9. 像内文書・願文を読む
10. 像内文書・願文を読む
11. 像内文書・願文を読む
12. 像内文書・願文を読む
13. 像内文書・願文を読む
14. 像内文書・願文を読む
15. 総括と講評

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表内容 [50%]

9. 教科書および参考書：

テキスト：『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』（中央公論美術出版）、『江都督納言願文集注解』（塙書房）、『貴重古典籍叢刊 6 安居院唱導集上巻』（角川書店）、『国立歴史民俗博物館研究報告』188

10. 授業時間外学習：参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅱ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM23407, 科目ナンバリング：LIH-ART607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本絵画作品研究
2. Course Title (授業題目)：Training to read information of the Japanese paintings
3. 授業の目的と概要： 「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めでる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。
本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現し、さらに美術館や博物館における絵画分野の担当学芸員として必要なスキルを獲得するため、毎回、実物絵画資料を掲示し、そこから情報を読み取る訓練を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides programs of training to read information on the Japanese paintings in the Edo era.
5. 学習の到達目標： 美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。
本講は作品を置き去りにしないため、対象に即して読み取るべき情報やその優先順位を見極める能力の向上を目指す。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course aims to improve the students' ability to read information on the Japanese paintings.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

実際の絵画資料を掲示し、受講生が協力しながら作品の調査を行う。必要な情報を整理しつつ、その内容をまとめてプロジェクターおよびレジュメを作成し、翌週に口頭発表を行う。
1 回目 ガイダンス
2 回目・3 回目 近世絵画
4 回目・5 回目 中近世の仏画
6 回目・7 回目 近世絵画
8 回目・9 回目 中近世の仏画
10 回目・11 回目 近世絵画
12 回目・13 回目 中近世の仏画
14 回目・15 回目 近世絵画
8. 成績評価方法：
十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。
9. 教科書および参考書：
【参考書】
◎美術全集
『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)
『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970 年代前半)
『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970 年代前半)
『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)
『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)
『世界美術大全集』東洋編(小学館 1990 年代後半)
『日本美術全集』(小学館 2010 年代)
10. 授業時間外学習：日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。